

- ① 組合員をひとりとして孤立させない(脱無縁社会に向けて)
- ② ベテラン組合員の登場の場
- ③ リーダーを育てる場
- ④ 組合員以外の地域の人々との繋がり



2012年には80のコミュニティが誕生



コミュニティの役割(例)

平時

- ・ご近所での関係づくり
- ・地域での情報共有
- ・非常時を想定したたすけあいのしくみの検討と想定訓練
- ・連絡網づくり

非常時

- ・安否確認・人命救助、避難
- ・炊き出し
- ・配達、支援物資の受け取り

再びコミュニティの輪が広がりはじめます



2019年9月には
コミュニティ数430!
15,000人以上が参加しています!!

地域で広がるさまざまなコミュニティ活動

緊急支援物資受け取り訓練

防災・環境保全の街歩き

フリーマーケット

エコロ学習会

高齢者の見守りを兼ねたお茶会

「共助」! コミュニティ活動はまさに共にたすけあい、共に地域をつくっていく活動ですね!

誰も孤立させない社会・地域の居場所 私らしい暮らし方をめざして コミュニティを広げましょう!

土谷 理事長(当時)

法政大学人間環境学部教授 西城戸 誠さん



コミュニティとエコロたすけあい制度

顔の見える関係性のあるコミュニティは、ケア希望者とケア者をつなぎやすくするという意味で、エコロの有効活用につながる。コミュニティは生活クラブの組織ではあるが、行政や地域の団体などとも関係性を築ける集まりである。組合員活動が活発になることで、コミュニティに活気が生まれ、コミュニティが存在することで組合員活動にも広がりが生まれる。現在、地域でそれぞれの目的や集まり方を持っているコミュニティだが、まち活動との連動やコミュニティリーダーの登場が今後のカギとして期待される。

エコロたすけあい制度

組合員どうしが気兼ねなくたすけあいの関係をつくれるようにできたしくみが「エコロ共済制度(現・エコロたすけあい制度)」。

掛け金100円のうち、80円が「組合員どうしのたすけあい」に使われ、20円が「エコロファンド」として生活クラブの地域福祉政策に役立てられている。「組合員どうしのたすけあい」の部分では、企画参加時の託児や、高齢者や障がいを持つ加入者のサポートなどを行なったケア者にケア金が交付される。また、目の不自由な組合員のために「生活と自治」や「ジョイエス」を音訳したCDを届けるリーディングサービスでは、音訳者に対してケア金が交付される。「エコロファンド」としては、「生活クラブ保育園ほむ」の備品購入などに活用されている。制度自体もルールづくりに組合員が参加することにより、より利用しやすいように改訂を重ねている。

コミュニティの推進

エコロは組合員どうしのたすけあいのしくみだが、個別配達が配達の大数になると、ケア依頼者とケア者とのマッチングも難しくなってきた。同じマンションに住んでいてもお互いが組合員だとわからないなどの実態が増えてきたのだ。そのような状況を打開するために、地域で20~40人くらいの「コミュニティ」が推進されていった。社会背景としても、若者・高齢者の孤立、子どもの貧困、孤独死など、無縁社会の問題が浮き彫りになるなか、2011年の東日本大震災を経て、さらに地域で顔の見える関係性づくりの重要性を感じられるようになっていった。